

縄文のことを知らなくても、?や!や空想でつながってみよう 時空を超えて、自由に発想するワークショップ

正解はなかなか見つからない縄文時代だからこそ、空想や仮説を繰り広げてみよう。そんなコンセプトで、ワークショップを開催しました。歴史の教科書から飛び出して、感じるままに縄文をおもしろがろう。タイムリープして想いを馳せてみることで、縄文のイメージがどんどん更新され、膨らんでいきました。

縄文展をあるこう! 8/4(日)



講師 市川力
(一般社団法人みつから+わかる代表)

知識の前に「気になるセンサー」をまず働かせて、縄文展を感じてみよう。正解が見つかりにくい縄文。謎が多いからこそおもしろい! それぞれ好きなように会場をまわって、?と!と感じたものを「知図」に描きました。シェアをしていく中で、ひとりひとりの視点の違いがあらわれていく、ワクワクした場となりました。

中空土偶の観察会

6/25(土)、7/28(日)、8/25(日)



講師 高秀章子
(atelier Beyond / 本展示企画・プロデュース)

国宝・中空土偶をみんなでじっくり観察する会。たまたまから細部まで、展示会場であたり見た後は、印象に残ったことや文様を描き、? (ふしぎ) ! (ビックリ) といったおののを感じたことをしゃべりました。カックウをめぐる空想、妄想、仮説がたくさん出てきました。その内容は第二弾での展示パネルにも紹介されました。

縄文で空想ショートショート 7/28(日)



講師 田丸雅智 (ショートショート作家)
× ぐるぐる探究隊

縄文→現代→未来…。妄想タイムリープをして、ものがたりをつくりました。縄文時代から縄文人が持ってきた(という設定の)写真をもとに、いろいろな発想をばし合いながらワーク。最後は現代のナチュの森にあるふしぎのタネとかけ合わせて、ショートショート(短くてふしぎなお話)を。大傑作ぞろいでの書きの出来上がりでした。

土器や石器に触れて、縄文文化を 学んでみよう! 7/14(土)



講師 菅野修広
(登別市教育委員会 学芸員)

縄文と私たちの関係って? 縄文の生活ってどこも同じなのかな? いろんなことを考えていたのだから? 縄文のホンモノの道具に触れながら、この地の縄文文化を考えました。



専門家の話を聞くと、縄文のことをもっと知りたくなる 知的好奇心が動きだすトークショー

知れば知るほど、ナゾが多い縄文時代。歴史の教科書には書かれていない深いところを研究している専門家のみなさんに、興味を持ったことを聞いてみよう。と、トークショーを開催しました。縄文の興味の入り口で感じたことが広がって、深めていきたくなる。探究心がうごきだす時間でした。

「ナチュの森で縄文にであう展」 トークセッション 7/14(土)



ゲスト 菅野修広 (本展示監修 学芸員)
豊田亜紀子 (制作協力書籍「知られざる縄文ライフ」著者)
宮田麻貴子 (本展示企画構成・空間デザイン)

展覧会場空間デザインのこぼれ話 (基本構想から実現まで)、展示内容の深掘り話や制作こぼれ話など、本展と縄文文化をより楽しんでもらうトークセッション。会場をより楽しくもわっていただくネタが満載でした。

北国の土偶を語る 主役の座をねらう土偶たち 2025.2/8(土)



講師 豊田亜紀子
(文筆家・土偶女子)

北国の土偶の代表といえば、カックウですが、次の主役の座をねらう土偶たちについて語っていただきました。豊田さんが土偶女子になったきっかけのエピソードやそもそも土偶とは? など、本州と北海道の土偶の出土した環境や造形の違いを、全国各地の遺跡や土偶を見て来たからこそその視点で見えてくることについてお話しされました。土偶という存在を通して、縄文文化への更なる理解や関心を誘いました。



カックウの生みの親と土偶女子 縄文時代を大胆に語る 8/31(土)



講師 阿部千春 (北海道縄文世界遺産推進室 特別研究員)
豊田亜紀子 (文筆家・土偶女子)

世界遺産認定へ導いた阿部先生と、縄文関係の著書を多数持つ豊田さん。お二人のトークセッションは初めてということもあり、小学生から大人まで幅広い縄文ファンが集まりました。「人は自然との共生ではなく、自然に生かされているのだ」という未来へのメッセージが子どもたちにも伝わっていました。

ナチュの森で縄文に であってどうだった? 2025.2/22(土)



ゲスト 菅野修広 (登別市教育委員会 学芸員)
坂本尚史 (公益財団法人北海道埋蔵文化財センター)
直江康雄 (千歳市埋蔵文化財センター)
澤野慶子 (洞爺湖町教育委員会)

進行 高秀章子 (本展示企画・プロデュース)

来場者からたくさんいただいた? と! とQ。そのアンサー企画として、学芸員さんたちのクロージングトーク会を開きました。みなさんとともに考える時間のお題は「縄文人から、現代人への質問」。子どもたちからは「どうしてお金とモノを交換しているの?」「私たち縄文人のこと、ほんとうにわかっていて?」という深く鋭い問いが。私たちが縄文人から受け取ったメッセージを次世代へつないでいく場となりました。

子どもたちからは
するどい質問が!